

はじめまして。4月よりティンパニ・打楽器奏者として入団しました小川研一郎です。出身は千葉県千葉市の稲毛という町です。両親の影響もあり3歳よりピアノとヴァイオリンを始め6歳で挫折。途中少年野球などを経て小学校の金管バンドクラブで打楽器を始めました。同じくして地元のジュニアオーケストラに入団しオーケストラの世界に早くから接する機会に恵まれました。将来はプロの打楽器奏者としてオーケストラで演奏するという夢は小学生の頃からなんとなく抱いていました。



小川研一郎

父親には厳しく言われましたが「最終的には自分の人生は好きなように決めなさい、しかし音楽の世界でやると決めた以上、どんな苦勞にも耐え忍んででもやりなさい」と約束し東京音楽大学へ進ませてもらいました。

中部フィルとの最初の出会いは去年の1月にエキストラとしての出演でした。文化庁の音楽教室で東北を約1週間まわるツアーでしたが、とてもアットホームな雰囲気、公演の内容もただ演奏を聞かせるだけでなく実際に聞く児童や中学生の側に立ったプログラミングで、どの公演もとても盛り上がっていたのを覚えています。

それから半年ほど経って大学の2学年下の後輩である伊藤拓也君から中部フィルのオーディションが出たとメールで教えてもらいました。直ぐにホームページを確認し考えた末挑戦しようと決断しました。オーディションをしてくれた後輩の伊藤君も受けるということで、オーディション受験者としてはライバルでありながらも名古屋駅で待ち合わせ会場まで二人一緒に向かいました。オーディションは緊張しましたが気持ちは伝われば良いなと思っていましたが、まさかの私と伊藤君の二人合格。今思えば何か運命的なものも作用したのかもかもしれません。

中部フィルは新しいオーケストラですが、若さとエネルギーが演奏にみなぎっていると思います。また小牧市はもとより中部地方全体の未来の芸術文化発展のために音楽教室に積極的に取り組んでいます。そんな中部フィルに参加できてとても嬉しく身の引き締まる思いです。これからは中部フィルの魅力をより一層引き出し、中部フィルの演奏が聴きたいと演奏会に足を運んで下さるお客様が増えますように、努力を惜しまず微力ながら邁進していきたいと考えております。こんな私をどうぞ宜しくお願いします。



NPO法人中部フィルハーモニー交響楽団

# 中部フィルだより

## 新理事長あいさつ

このたび、中部フィルハーモニー交響楽団の理事長を務めることとなりました建部です。微力ですが、楽団の更なる発展にむけて努力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

中部フィルハーモニー交響楽団は、広く中部圏の音楽文化の振興・発展を目的として、2000年に小牧市で発足いたしました。地元の行政、各団体・企業、個人支援会員の皆様のご支援と、楽団員の精進により、活動範囲も中部圏全域へと広がり、この地域でなくてはならない楽団に成長して参りました。6年間に亘り楽団の成長・発展に多大なる貢献を頂いた藤井前理事長をはじめ、多くの関係者の熱意・ご尽力の賜物と、心からお礼申し上げます。

ご承知のように、来年には楽団創立15周年という節目の時を迎えます。名実ともにひとり立ちして、「地域に根ざしながらも、地域を超えたトップクラスのオーケストラ」という夢に向かって、一歩ずつ着実に努力を重ねて参りたいと思います。

あたたかいご支援を頂いています行政の皆様、団体・企業の皆様、個人会員であるサポーターの皆様におかれましては、楽団が「地域・市民の確かな文化財産」になれるよう頑張って参りますので、引き続き、絶大なるご支持・ご支援を頂きますよう、心からお願い申し上げます。



理事長 建部 信喜

## 「一人ひとりの思いや存在を大切に！」

我が小牧に、プロの交響楽団が誕生するらしい…。「えっ、本当ですか？」とびっくりしたことを思い出します。それから満14年、小牧・愛知・中部に根を下ろし、しっかり成長してまいりました。

私の友人で、小澤征爾さんの追っかけをしている彼に、小牧でプロの交響楽団がスタートして、秋山和慶さんが指揮されるけどいかがですか？と言ったら、二つ返事で是非お聴きたいとのことでした。そんな頃、私は秋山先生の存在をよくは承知していなくて、その彼から詳しく教えてもらったことを思い出します。

小牧市交響楽団から中部フィルハーモニー交響楽団と名称変更をし、これまで多くの方々に音楽の素晴らしさ、楽しさをしっかり育てていただきました。今では、日本全国で小・中・高等学校の音楽鑑賞事業をテーマに文化庁主催のお手伝いもされていると伺っております。

先般、何気なく「日本のプロフェッショナルオーケストラ年鑑2013」を見ておりましたら、「もっともよかったコンサート」の欄に、中部フィルハーモニー交響楽団は「第5回犬山定期演奏会～未完に終わった二人の天才～」が紹介されていました。合唱付きの宗教音楽にかけては、我が国最高の指揮者として堀後輔氏が紹介されておりました。合唱も地元の音楽資源を活かしての企画だけに、とても心嬉しく思いました。

素晴らしい演奏や新しい試みにも果敢に挑戦される中部フィル。この活動のお手伝いができればとの皆さんの思いで、今年の2月に「コアサポーター会」が誕生しました。音楽が大好きな20名のメンバーは、地域の文化振興につながるのであれば汗を流すことを厭わない仲間です。この会が中部フィルの貴重な支え役として、地域文化振興のために大きな役割・動きを高めてまいりたいと存じます。私達コアサポーター会の活動はまだまだ緒についてはおりませんが、メンバー一人ひとりの「思い・存在・やる気」などを大切に、しっかり活かしていけたらと念じております。皆様のあたたかいご理解とご指導をよろしく申し上げます。



コアサポーター会  
会長 丹羽 正雄

## 会長のちょっとチャット

藤井 昭

このたび理事長から会長に退きましたので、話題は音楽に限らず、として今後も「会長ちょっとチャット」のコラムを続けたいと思います。今回はゴルフジョーク2点。

「あなたって昔のゴルフの話はよく覚えているのね。私達がいづ結婚したかも忘れていくせに。」  
「そんなことはないよ。よく覚えているさ。その日は私が9メートルのパーディパットを沈めた日だった。」

あるゴルフ狂の男が自分の死後のことを気にして、「天国にもゴルフ場があるんでしょうか？」と牧師に尋ねました。牧師は「それは自分にも判らないですね。今夜お祈りの時に神様に訊いておきましょう。」と。翌日、再び牧師を訪ねると、ああ、天国にも素晴らしいゴルフ場があるそうです。それで、今度の日曜日のアウトコースを予約しておいてあげましたよ。」

## 先行予約サービス開始のお知らせ

中部フィルハーモニー交響楽団では、11月に開催する第7回犬山・松阪定期演奏会から、サポーター・フレンズ会員様を対象に、自主定期演奏会（※一部公演を除く）の先行予約をはじめます。一般発売より先に、会員の皆様ご希望の席を確保できるサービスです。先行予約の受付期間・申込方法等につきましては、公演前にお送りするご案内をご覧ください。皆様のお申込みをお待ちしております！

## 2014年度 理事・監事

- 会長：藤井 昭 理事長：建部 信喜 ファウンダー：佐藤 宏  
常任理事：赤塚 尚武／副島 孝／徳田 重友／堀 俊輔／吉村 脩／宮澤 香／望月 康宏  
理事：大島 賀樹／大野 眞澄／加藤 道雄／後藤 孝文／志村 美佐子／社本 さと子／武元 智子／野村 博子／長谷川 隆彦  
藤井 昭／水野 恵翠／宮田 真弓／横田 恭子  
監事：野々川 和明／水野 良夫

## 中部フィルだより 第24号

発行日 2014年7月15日  
発行所 NPO法人  
中部フィルハーモニー交響楽団  
〒485-0041 小牧市小牧二丁目107(市民会館内)  
TEL:0568(43)4333 FAX:0568(43)4334  
http://www.chubu-phil.com/

## 編集後記

はじめとした「梅雨」の季節は植物には気持ち良いのかも知れませんが、しかし楽器にとっては湿度は大敵で、演奏にも大きな影響を及ぼします。そんな中この時期は毎年恒例の小牧市内幼稚園・保育園でのアンサンブルの演奏を行っています。今年は「アナと雪の女王」のテーマソング「Let it go」が各園で好評をいただいています。子ども達の無邪気な歌声と笑顔に思わず涙がこぼれます。

## 音楽こぼれ話あれこれ

### 「楽団員の質問」

ファウンダー 佐藤 宏

1965,6年ごろ、つまり約40年にもなろう昔の話である。当時筆者が所属していた大阪フィル定期に、帝王カラヤンと並ぶドイツの巨匠H.S.イッセルシュテット氏を迎えて定期公演の練習中のひとコマである。確か3日間ある練習の2日目、曲目は忘れたが前日のテンポと少し違ったことは誰もが感じたものだが、どこの楽団にも色々な団員がいるもので、某管楽器奏者が指揮者に次のような質問をしたのである。

「あー、昨日のテンポと違うのですが、どっちのテンポが本当なのですか？」と本人は指揮者のあげあしを取ったつもりであったろうが我々は何て馬鹿な質問をするのだろうか？と恥ずかしくて顔をしかめたものだったが、この世界的なマエストロは通訳を通して返答されたのである。

「昨日の私の気持ちは昨日、今日は昨日と感情が違います。本番ではまたどう変わるかわかりません。生きた音楽とは毎回微妙に違うものです。だからこそ如何なる変化にも対応できるように今練習しているのです」と、世界的な巨匠の言葉だけに、某氏もそれ以上何も言えず、全楽団員の前で恥をかく結果になってしまったのだが何処の世界にも馬鹿な人はいるものである。

## 最近の演奏会から

### 第7回名古屋定期演奏会

ヴァイオリン 加藤 絢子

6月20日に行われた、しらかわホールでの第7回名古屋定期演奏会では、大変多くのお客様にお越し頂きありがとうございました。

初めはベートーヴェン「序曲コリオラン」低音で鳴り響くC(ド)の音で、一気にテンションが上がります。指揮の秋山和慶芸術監督の一振り、演奏者全員の集中力が高まり、会場と一体になりました。

次はベートーヴェン「交響曲第4番」。リハーサルで入念にチェックした第1楽章のある箇所ですが、本番では全員の気持ちが一つになりました。とても繊細なPP(ピアノシモ)。その直後の指揮者の満足そうな微笑みが忘れられません。

そして、ブラームス「ピアノ協奏曲第2番」。ソリストの佐藤麻理さんの色彩豊かな音色に魅了されました。「ピアノの序奏つき交響曲」とも言われる50分にも及ぶ大曲と一緒に作り上げる作業は、充実したものでした。ピアノの技巧的な演奏と共にオーケストラとのアンサンブルもお楽しみ頂けたのでは、と思っています。

次回は、11月15日犬山市民文化会館、11月16日松阪クラギ文化ホールにて第7回定期演奏会を行います。また、多くのお客様にご来場賜り、共感して頂ける演奏を目指してまいります。



### 名古屋定期に児童養護施設の生徒を招待

恒例の名古屋定期演奏会は、6月20日名古屋「しらかわホール」で18時45分に開演された。

秋山芸術監督の指揮によるベートーヴェンや期待の新鋭佐藤麻理さんの奏でるブラームス・ピアノ協奏曲など、満員の聴衆の拍手が鳴り止まないコンサートであった。

中部フィルは、このコンサートに、愛知県下の児童養護施設の生徒や県下の障害施設の入所者40名を招待した。これは当団の社会貢献活動のひとつとして、「児童」「高齢者」「社会福祉」関連の方たちを対象に、生のオーケストラによる本物のクラシック音楽を鑑賞していただきたいという趣旨で始めたもので、去る3月30日のファミリーコンサートでは、小牧市老人クラブから50人の招待を行い、皆さんお孫さんづれで来場され好評を博した。



## 中部フィルNEWS ~最近の出来事~

### 中部フィルピンバッチを作成しました！

日頃からご支援頂いているサポーターの皆様へ感謝の気持ちを込めて、ロゴマークのピンバッチを作成致しました。

グリーン色のピンバッチご愛用を通じて、皆様の中部フィルへのオーナーシップの気持ちがますます強まるよう祈念しています♪

また、中部フィルの社員(楽員、理事他)には、エンジ色のピンバッチを作成しましたので、皆様両バッチとも宜しくご愛用ください♪



### 産業フェスタ

5月24日、25日の2日間パークアリーナ小牧にて「こまき産業フェスタ」が行われました。

今年は、24日にメインステージにて懐かしの「ピンクレディーメドレー」や「3分クッキングのテーマ曲」など聴きなじみのある曲目で、木管五重奏の暖かい響きをご来場者にお楽しみいただきました。



### スポーツコラボ 全国サッカースクール交流会で歓迎演奏

去る5月5日、小牧市パークアリーナサッカーグラウンドで「こども夢・チャレンジカップU-12(小牧市長杯)」が開催されました。その前夜祭では、わが中部フィル金管五重奏が「凱旋行進曲」や「ファンファーレ」で会場を大いに盛り上げました。

当団では初めてスポーツとのコラボレーションでしたが、全国から集まったバルセロナ、チェルシー、小牧のACミランなど海外有名クラブサッカースクールの子供達や父兄・スポーツ関係者に、スポーツを盛り上げる中部フィルの華やかな演奏が強い印象をあたえました。

今後もスポーツコラボを継続して、当団の活動フィールドを広げて参ります。



### ゲネプロ見学会にて

3月30日に開催した「第11回ファミリーコンサート」では、当団はじめてのゲネプロ見学会を行いました。市内25校の小中学校から約120名の親子を招待し、本番前の練習をご覧いただきました。

アンケートでは「舞台裏が見えて興味深かった」「生の音は迫力があつた」などのご意見をいただき盛況のうちに終了しました。次の開催も計画しておりますので楽しみに！



### THE 雑学！「オーケストラの楽器編成」

オーケストラの編成の規模を表す意味で「10型2管編成」などの言葉が使われます。「10型」とは第一ヴァイオリンが10名で編成される場合の事を表します。また「2管」編成とはフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットが各2名で演奏される場合の事を表します。なので「10型2管編成」は全体では約50名程のオーケストラで、モーツァルトやベートーヴェン初期の作品はこのくらいの規模で演奏されていることが多いです。

それに対してワーグナーやマーラーなどの作品は、とても大きな編成で演奏します。管楽器の各セクションが5名で、弦楽が「20型」となり120名を超えるものもあります。

実際には編成と人数は演奏する曲や、指揮者などの曲の解釈によっても増減しますのでこれはあくまでも基準的な呼び方になります。

今回の犬山・松阪の定期演奏会は10型2管編成です。お越しの際は是非ステージの人数にも注目して観てくださいね。